習志野原の変遷３

第３回目

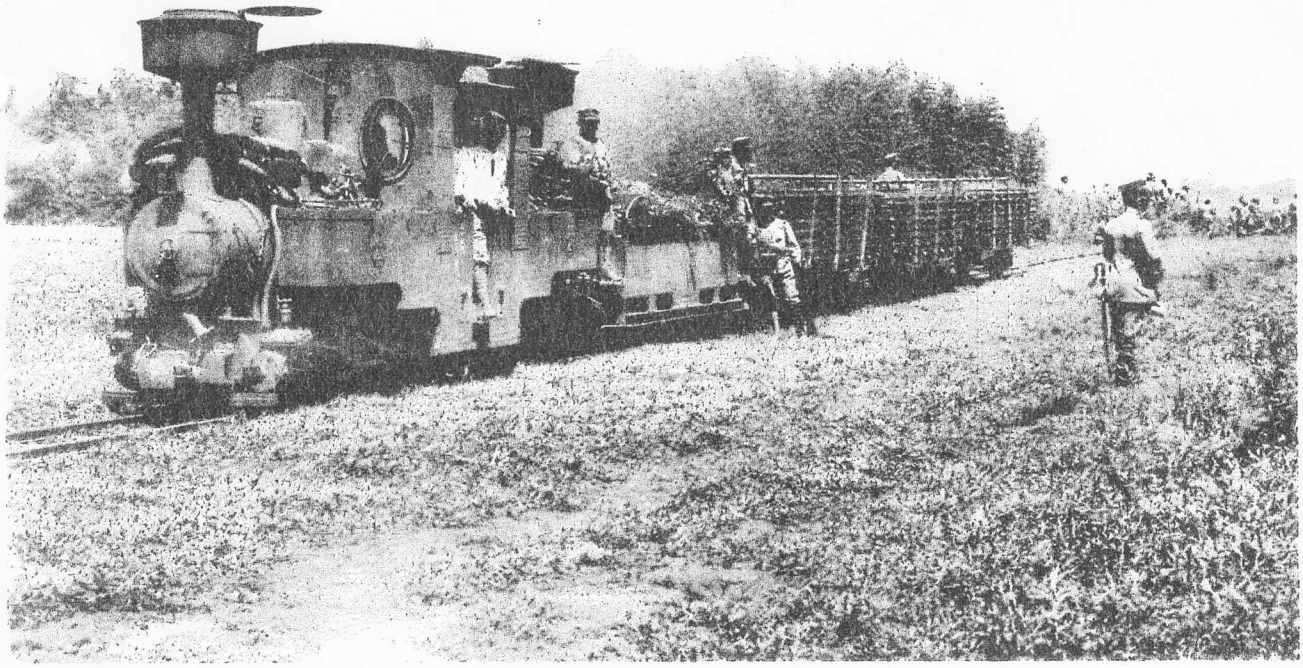
平成24年7月1日（日）

『陸軍鉄道第二連隊』

～その歴史と軽便鉄道のある風景～

講師：坂井元昭

（歴史研究家）



業作設敷道鐵便輕　隊聯二第道鐵

船橋市習志野台公民館

鉄道第二連隊の歴史

（添付資料　次ページ　鉄道第二連隊史　近代デジタルライブラリー　国会図書館）

明治 29 年（1896 年）　鉄道大隊として東京・牛込の陸軍士官学校内に創設
明治 30 年（1897 年）　中野に転営明治 40 年（1907 年）鉄道聯隊に昇格。
明治 39 年（1906 年）千葉県千葉郡津田沼町谷津（現・千葉工業大学）に転営
明治 41 年（1908 年）　連隊本部及び第１大隊が千葉に転営
明治 41 年（1908 年 ）－ 第三大隊が千葉県千葉郡津田沼町谷津に新設
大正７年（1918 年）10 月 － 第三大隊が鉄道第２連隊に昇格
昭和２年～昭和７年、津田沼～松戸線敷設

鉄道連隊は、戦時に出動するも、平時は、主に千葉県内及び近県の鉄道建設や修復に活躍した。
身近には、京成線の津田沼ガードや、鷺沼台２丁目警察署南の京成成田線の総武線をくぐる掘削した立体交差等。
千葉県営鉄道、小湊鉄道など敷設、改修など、民間交通に寄与しています。
戦線拡大と共に、鉄道第一、第二連隊から中国戦線や南方戦線に新たに連隊が作られる。

第三連隊	昭和９年（１９３４年）	第四連隊	昭和 13 年（１９３８年）
第五連隊	昭和 13 年(１９３８年)	第六連隊	昭和 12 年（１９３７年）

その後太平洋戦争末期、昭和１９年（１９４４年）には
第７連隊から２０連隊まで作られ、大量に中国大陸、南方戦線へ出兵。
昭和２０年８月１５日終戦、鉄道連隊終焉
降伏文書調印の９月２日が終戦とも、またサンフランシスコ講和条約昭和 27 年４月２８日発効がとも

－－－

日本陸軍鉄道連隊 A/B 形蒸気機関車

1890 年にドイツのクラウス社が野戦用に設計製造された 600mm 軌間の機関車である。

屋根の高さをずらし、高い方をＡ形低い方をＢ型とし、運転台を中心に背中合わせに２台を結合しひと組とした機関車である。

二台の機関車の為、「双合機関車」（Zwillingloks　双子））と呼ばれ、連結を放し、一両で走ることも可能である。

ボイラーの両側に、石炭用、水用タンクが付けてある。

運転台は左右反対になっており、背中合わせの時、一人の機関士と助手（１～２人？）で走行出来る。

しかし、２台の運転は圧力調整な、どちらも同じ力にする難しい技術を必要とされたという。

明治 34 年（１９０１年）　５組１０両　（コッペル社製）→習志野騎兵連隊建設等に使用

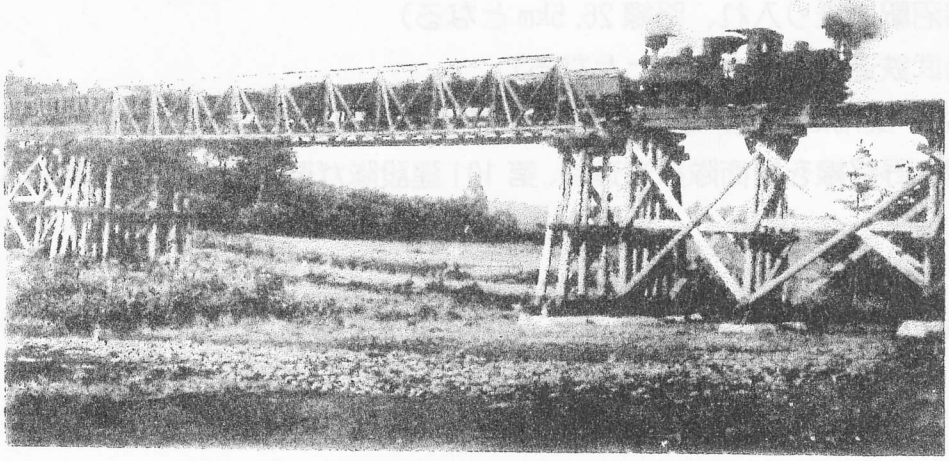
明治 38 年～39 年（1905 年～1906 年）　１８６組　３６６両（クラウス社、コッペル社等で８社で製造）日露戦争用に発注

しかし、日露戦争には間に合わず、殆ど津田沼材料廠に保管

明治 44 年　津田沼～千葉間軽便鉄道路線敷設（第一連隊へ機関車等を移す）

樺太、中国大陸、南方戦線など外地に出動、一部民間企業などにも活用す。
終戦後、どこにも見つかっていないそうです。

ドイツ軍は１８２組を所有、野戦用として使用、植民地、南西アフリカ（現ナミビア）に多数使用。
ナミビア共和国　の首都　ウイントフック駅前に　Ａ形一両のみ保管展示されているという。



第一連隊の軽便鉄道線路敷設

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records

第六三号 第四十六号

清田沼ヶ崎間軽便鐵道線路ノ運轉ニ関シ使用
敷地及廣ニ付申請

明治四十四年三月廿五日 [illegible]

陸軍大臣 [illegible] 殿

[illegible]ヶ崎、清田沼間軽便鐵道中、清田沼ヨリ溜池ノ間ニ至ル線路ニ三十七番敷地ヲ購入セラレタル軽便鐵道材料ヲ鐵道線路ニ於テ溜池停車場ニ改造ノ為運搬スル人、馬、三十九番雷管庫敷地ニ於テ運搬スル人、馬、三十九番雷管庫敷地ニ於テ運搬スル人、馬、

溜池ヶ崎間、線路ニ沿ヒ鐵道材料ヲ ヶ崎ヘ物輸、馬、四十一番ニ四十二番ニ渡シ編成線ニ以テ敷設シ使用中、便宜ノ為ヶ崎ヘ物輸ヲ一ツ宿ニ就テハ今後如線路[illegible]鐵道線路溜池ヶ崎間ヶ使用敷地ノ廣ノ方ニ、通ニ関シ敷地修繕到線路[illegible]相済ヲ此段及申請候也

左記

軽便鐵道線路清田沼ヶ崎間

[illegible]

陸軍中將　山田陸樋閣下題字
陸軍中將　嶋瀧業磨閣下題字
鐵道第二聯隊長
陸軍工兵大佐　池田茂藏殿　序

鐵道第二聯隊歴史

帝國軍隊歴史刊行會編纂

昭和
帝國
図書館

近代デジタルライブラリー　国会図書館
http://kindai.ndl.go.jp/

近代デジタルライブ
http://k

鐵道第二聯隊歴史

第一章　鐵道隊の起原及鐵道第二聯隊創立以前に於ける歴史

一、鐵道隊の起原

[illegible]鐵道部隊は明治二十七八年征清の役に於て山海關、天津間の鐵道改築修理及此鐵道[illegible]を[illegible]鐵道敷設の爲め、明治二十八年三月臨時鐵道隊及臨時輕便鐵道隊を編成せらる。（臨時輕便鐵道隊は編成中講和成立にて中止）次で八月臨時臺灣鐵道隊を新設し、輕便鐵道の敷設及既設鐵道の補修並に、運輸業務に任せしめられたに創まる。

二、鐵道隊の創設と其變遷

イ、鐵道大隊

常設鐵道部隊の創設は、明治二十九年十一月二十八日、鐵道大隊として、大隊本部及

三中隊並材料廠を東京市牛込區河田町陸軍士官學校内に設置せられ之を、近衛師團長に隷屬せしめらる。當時の大隊長は工兵中佐吉見精とす。翌三十年六月二十八日中野に於ける兵營暑完成したるを以て移轉す。（現今電信第一聯隊の屯營とす）

明治三十三年北清事變に際し臨時鐵道隊を編成せられ、隊長工兵大佐吉見精以下百三十余名出征す。（詳細は別に記述す）

明治三十五年十月陸軍電信教導大隊を分立す。（現今の電信聯隊之なり）十二月二十五日營庭に於て設隊會見式を行ふ。

明治三十七年二月十八日、日露戰役動員下令せられ一部は二月二十一日、主力は三月一日東京出發征途に上る。（戰役間に於ける詳細は別に記述す）

明治三十九年三月二十四日臨時鐵道大隊並に、鐵道大隊補充隊復員完結す。當時の大隊は本部及四中隊並に材料廠にして、大隊長は工兵大佐井上仁郎なり。是より先習志野に派遣隊を置き、津田沼、深山間軍用輕便鐵道の運轉を實施中の處、明治三十九年五月二十二日總武鐵道株式會社と運轉上に關する規定を協定す。

明治三十九年六月五日輕便鐵道敷設實施踏査の爲め、工兵大尉藤田省三以下十三名を

樺太に派遣の命あり、六月九日出發、七月二十九日歸隊す。

明治三十九年八月十七日、工兵大尉藤田省三以下二百四名軍用輕便鐵道建築の爲め樺太に向ひ出發す。

四、鐵道聯隊

明治四十年九月十八日鐵道聯隊編成を命せられ、聯隊本部、第一大隊、第二大隊及材料廠は千葉町を、仝第三大隊は津田沼町を屯在地と定められ、同年十月九日編成改正を命せられ、鐵道大隊（本部及四中隊並材料廠）を基幹として鐵道聯隊及同材料廠を編成せしめらる。

同年十月二十五日、東京府下中野町に於て聯隊本部、第一大隊本部、四中隊、第二大隊本部、二中隊及材料廠を編成す、當時の聯隊長は工兵中佐土屋喜之助にして交通兵旅團長は陸軍少將落合豐三郎とす。

同年十一月二十三日第三大隊は津田沼新兵營に移轉す。

明治四十一年六月二日第二大隊は、千葉町新兵營に、又六月六日聯隊本部及び第一大隊並に材料廠は津田沼兵營に移轉す。

同年八月二十九日、工兵大佐武内徹鐵道聯隊長に補せらる。同年十月第七、第八中隊及第三大隊（本部並第九、第十中隊）を增設せられ、又聯隊本部及第一大隊は千葉に移轉す。

明治四十二年十月三十日第十一、第十二中隊を增設せられ茲に聯隊の編成を完結す。

大正三年八月二十一日臨時鐵道第三大隊、同年八月二十八日臨時鐵道聯隊編成下令せらる。（詳細は別に記述す）

留守隊は本部及二中隊並材料廠にして留守隊長は工兵中佐德永熊雄とす。

大正三年十二月十八日戰地より運送傷病兵狀況視察の爲め、待從武官西儀一を差遣せらる。

大正三年十二月三十日、出征部隊臨時召集將校以下五百四十六名、及び留守隊要員現役特務曹長以下百七十七名凱旋す。

大正四年四月十日復員下令、同年四月十二日臨時鐵道聯隊凱旋す。千葉及津田沼の官民は堵列を爲し歡迎す。

大正四年四月十五日復員完結す。

大正四年五月二日營庭に於て、大正三年戰役に於ける戰病者の招魂祭を行ふ。

大正六年五月二十九日平時編成改正並に大正七年軍備充實要領を達せらる。

三、鐵道隊の名譽

1、皇室に關する事項

一、明治二十九年十二月十七日、天皇、皇后兩陛下並に皇太子殿下の御寫眞を下賜せらる。

一、明治三十年一月十一日、英照皇太后陛下崩御、同年二月二日、青山練兵場に靈柩を奉送す。

一、明治三十年四月十七日、天皇皇后兩陛下京都へ行幸啓被爲在に付、鮫町區内幸橋附近に奉送す。

一、明治三十年八月二十三日、天皇陛下還幸に際し、大隊は神奈川縣中郡須馬村に演習出張中なりしを以て平塚驛に奉迎奉送す。

一、明治三十一年六月四日、創立記念式を行ふ、閑院宮載仁殿下來隊あらせらる。

19. 7. - 6　百十四の瞳

坂井　元昭
（ぎょうざ店店主）

昭和二十二年四月大久保小学校一年一組に入学。自分の名前だけはカタカナで書いて登校しましたが、この年から、ひらがなの教科書になり、皆ほとんどゼロからのスタートでした。一学年三クラス、元兵舎に外地から引揚て来た方々の子女も増えて私の一組は、何と五十七人。担任の宮崎朋子先生は十八才、戦後の物資難で教科書は一人に一冊しか無く、ノートを持っている子も少ない。書き取りは先ずノートを作ることからです。

先生は質の悪いホントに薄が見えるような薄半紙を重ね千枚通しで上下左右に一ヶ間隔ぐらいの穴を開ける。配られた生徒は物差しで縦横の穴に合わせて線を引くと将棋盤のようにマスが出来る。そこに先ず「あ」と書きました。良く考えれば国語を習うのに、工作の勉強も出来たのです。

先　一生懸命ですから、生徒も、よくついていきました。音楽も国語の教科書が歌詞でした。「おはなをかざる、みんないいこ」。この年は闇食料は食べぬと判事が起訴をした年。脱脂粉乳の給食が始まりました。「栄養を」と考えた庄司正之副校長、人参、長葱、大根等を入れました。味付けなし、生煮えで、ミルクだけは何とか飲みましたが、臭は臭から捨てました。三日ほどで元の脱脂粉乳に。二年生の一学期、先生は本教員と遥学のため辞めましたが、先生を慕って数人集まると澤田沼のお宅に歩いて行きました。沼は無いが心豊かな人々に私達の心は育まれたと思います。

（習志野市鷺崎在住）

19. 8. - 3　「パンコ」って知ってる？

坂井　元昭
（ぎょうざ店店主）

子供のころ（昭和20年代）大久保の畑には、直径2～3㌢の素焼きの丸い物が多数ありました。雨上がりなど、地表に出ていることもあり、男の子は10個20個くらいは持っており「パンコ」と呼んでいました。人面、家紋、縞など、いろいろな文様があり集めて楽しんでいました。

何だと思います？　実は江戸の子供の遊び道具「泥メンコ」だったのです。メンコ、おはじき、陣取りゲームなど、遊び方はいろいろあったようです。「今十徒」と言い、今の台東区の墨田公園辺りで作っていた人形、招き猫、植木鉢、土鍋など、庶民向けの焼き物でした。

その「パンコ」がなぜ畑にある？　当時の憲長屋のトイレは総後架という共同便所、それを汲み取り、汚穢船に積み近郊の農家に売っていたのです。（久々田、鷺沼辺りに陸揚げ？）人糞を売ったお金は大家さんの収入です。当時の大家さんは、ほとんど家主ではなく管理人で、管理料より多かったこともあったとか。長屋の子供も当然そのトイレを使いますネ。江戸時代、男の子の着物ポケットが無いから、「泥メンコ」懐にトイレへ、しゃがんだ途端ポッタンと落ちる。それが肥やしと混じってきたというわけ。

江戸時代の大久保新田の石高は周辺の村々の、2倍くらいあり、江戸の下町の肥やしを多く使ってがんばっていたのでは？　江戸のリサイクルや、水準に思いを馳せるのもまた一興かも。

（習志野市鷺崎在住）

19. 9. 21　ガキ大将の涙

坂井　元昭
（餃子店店主）

大久保駅近くの小学生の『ガキ大将』は一歳上の〝カッチャン〟、おれ達4、5人が子分。小学生の間ずっとの遊び仲間でした。墓場や火葬場（今の市民会館の処）も遊び場、田の小川では掻い堀。トンボや蛙には残酷な遊びをしたが子供の心の成長に必要な事だったのかも。時々鷺沼台の進駐軍（今の自衛隊の処）のジープが鷺沼へ抜けようと大久保の路々切りを渡り、我らのたまり場だったお墓の前の狭い道を通る事があった。

カッチャンに「ハロー」と言えと、私達はジープを追った。米兵はチュウインガムを投げてくれた。中に4、5枚入っていて1枚ずつ分けた。その美味かった事。

その頃、八幡様で野外映画があり、良く行きました。流行っていた三益愛子、水戸光子などのお涙頂戴の〝母物〟がよく上映されました。大人達は勿論、私も涙を流しました。隣のカッチャンをそっと見たら、涙でグチャグチャでした。戦後、必死に生きている親にとって涙は苦しみを洗い流す物だったと思う。当時の子供もまた、色々抱え込んで生きていたんです。今はあの頃よりそれは親も子も多く抱えているのかもしれない。

豊かな文明を追及のみの競争社会、鉄とコンクリートの町は、もはや人類の心の許容範囲を超えたのか？　『おしん』を理解できない大国の仲間入りをしたらしい。『トトロ』や『三丁目の夕日』までが心の時代だったのかも。

（習志野市鷺崎在住）

19. 10. 26　婦人子供専用車の思い出

坂井　元昭
（ぎょうざ店店主）

たまに、都内に出る。ホームに、女性専用車乗車口と有る。朝のラッシュ時は女性だけの車両になるそうだ。

ふと戦後の婦人子供専用車を想い出した。父の実家が中央区築町。聖路加病院に近く、奇跡的に空襲から焼け残った。母の実家はすぐ近く新富町の製本屋。だが防火帯として強制疎開（強制取り壊し）された。大久保から上野に、省線（しょうせん）電車で東京駅、そこから実家まで、水道管と金庫だけが立っている焼け跡を、歩いてよく行った。京浜東北線の先頭車両が婦人子供専用車となった。父は鮨詰めの普通車両に、母と私は専用車に。しかし、そこには男達が大勢乗っていた。当時GIと呼ばれていた米兵達だ。そんな婦人子供専用車だった。

母と私が行く時の昼食は、猫の額ほどの畑で作った、茹でトウモロコシだ。西郷さんの前は戦災孤児が多く、彼らを避けて母と私は焼きつくされた浅草方面が見渡せる塀の近くのベンチに座った。私は自分の一本をかじり尽して芯を脇に置いた。途端彼ら3人が飛びつき一人が芯をカリカリかじり、ほかが取ろうとしたが、彼は懸命に放さなかった。母は食べかけをあげた。戦後、浮浪児と呼ばれた彼ら、何時の世も弱者に厳しい。

俳優渥美清さんが「男はつらいよ」の最終回のロケ地、神戸長田地区の焼け跡での演技を褒められた、と伝え聞く。戦災を良く知る渥美さんならではと、これを書いていて思い至った。（習志野市鷺崎在住）

19. 11. 30　本物忍者に学んだこと

坂井　元昭
（ぎょうざ店店主）

戦後、小学校や中学校に出張映画や特技を持った方々が来られた。テレビが無い時代、本物を見せたいとか、いくばくかの収入の為もあったのかもしれない。大久保小3年のとき（昭和25年頃）「裸のおじさん」及川羅漢さんがやってきた。全身を顔にすれば健康になると一年中裸で半ズボンで全国を巡ってた人です。歯磨き体操と「ワッハハ」と笑いの指導をしました。

ターザン映画やニュース映画も上映された。平泉中尊寺金色堂の学術調査記録映画の内容は今も私の記憶にある。

そして、習二中一年の時、最後の「甲賀流忍者」藤田西湖さんが来られた。見世物の様に、級友数人を同時に催眠術に掛けたり、太いロープを引きちぎったり、日本刀を2本並べ刃に素足で立ったりした。好奇心の塊の私は控え室に彼の足を見に行った。足の甲の中ほどまで太いミミズ腫れの古傷があった。若い頃何回か失敗した時の傷だそうだ。原理も教えてくれた。鍛錬を積んだ技なのだと思った。

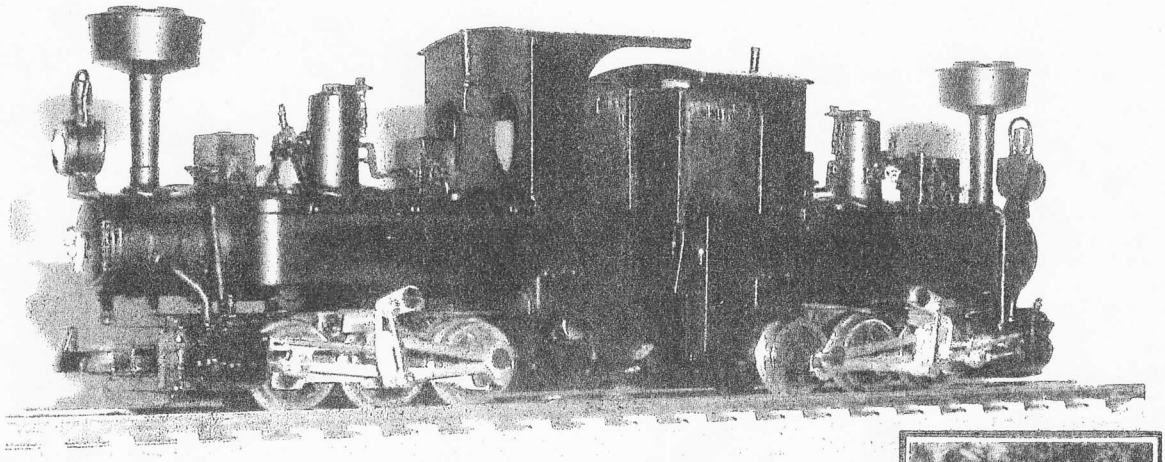
友人達が催眠術で思うがままに動かされるのを見て、人間の脳が簡単に他人に操作されることに気付いた。

忍術を見せながらも「考える事が重要、単純に思い込まない」が藤田西湖さんのメッセージと感じました。（戦時中陸軍中野学校で教えていた事を後に知りました）

しかし、今の世は、催眠術数奇奇怪怪、忍者も驚く世では？　「くわばらくわばら」

（習志野市鷺崎在住）

奇しくも2007年「今年の漢字」が**「偽」**になりました、ほんとに、忍者顔負けの輩（やから）がうごめいているようです。（江戸家ぎょうざ）



参考文献等

「写真に見る鉄道連隊」髙木宏之著　光人社発行

「実録　鉄道連隊」　イカロス出版株式会社

国立公文書館アジア歴史資料センター　HP

国会図書館　近代デジタルライブラリー　HP

習志野市 HP

「騎兵十五連隊第三中隊在営記念写真帳」(昭和10年)塚本写真館撮影

「鉄道ファン」昭和46年9月号　㈱交友社

鉄道模型趣味1973年10月号　㈱機芸出版社

日露戦役記念写真(四軍)　東京記念写真頒布会発行

絵葉書「鉄道第二連隊　軽便鉄道敷設　」　太陽社　発行

「幻の鉄道部隊　」【消えた第一〇一建設隊】伊藤東作著　かや書房発行

「くろがねの馬の物語　」　佐々木桔梗著

☆「秋山好古と習志野」1200円は、大久保商店街「お休み処」(476-6055)にて販売中